

## 第2章 古墳時代における天草砂岩の利用

高木 恭二・芥川 博士

### はじめに

天草は石の宝庫である。天草石の名で知られる天草陶石・天草砥石を筆頭に、天草砂岩、御領石、天草炭（無煙炭）、姫戸石灰岩、飛岳石などがあり、それぞれ特徴的な利用がなされた。歴史的産物として長い期間にわたって多用され、その多くは現在もなお利用され続けている〔田村ほか1968, 熊本県地質図編纂委員会2008〕。

天草砂岩という用語は考古学的にはさほど用いられることはない。それは産出地である天草諸島やその対岸である八代海沿岸地域とその周辺で見られるだけで、他地域での使用例が極めて少ないという現実があるからである。

古墳時代におけるこの地域以外での使用例は、現在判明している限りでは7例だけであり確かに少ない。とはいえ、天草や八代海沿岸、宇土半島北岸の周辺では191例の存在が確認できたので（表1～5, 図1・2）、必ずしも少ないとは言えず、今回取り上げる意味もあろう。

ところで、天草砂岩が歴史的に使用されているのは古墳時代だけではなく、中世以降、近世・近代・現代へと連綿と引き継がれているが、最も多用されたのは近世・近代である。特にこの石は切り出された産出地によって呼ばれ方が異なっている。

### 1 天草砂岩の特性と分布

歴史的に活用されてきた天草砂岩は基本的には3種がある。下浦石、維和石、合津石とされているものがそれで、砂岩を産する地域の名を冠してそのように呼ばれる。

しかし、地質的には天草砂岩と呼ばれるものはもう少し複雑な広がりを示している。天草において広く分布する砂岩の層としては教良木層、姫浦層群の上部亜層と下部亜層、坂瀬川層、砥石層がありその他にも白岳層、赤崎層、御所浦層群（浦層・外平層）などが知られている。

これらの地質分類される砂岩層群の中で、下浦石は砥石層・坂瀬川層、維和石は姫浦層群下部亜層に該当し、合津石は松島石とも呼ばれ、白岳層に分けられる。

砥石層・坂瀬川層は天草上島の西南端から天草下島北半にかけて広がっており、姫浦層群下部亜層は、宇城市戸馳島南端から上天草市の維和島、同じく上天草市天草上島の東岸下大戸鼻から天草市御所浦の横浦島・牧島にかけて分布し、白岳層は宇土半島北岸から南西方向に縦走して、大矢野島東岸から天草上島東側を南西方向へと細長く分布している。

地質年代としては、砥石層・白岳層が新生代の古第3紀始新世に、姫浦層群が中生代の白亜紀後期に当たる。前者が今から4千万年前頃で、後者が1億年前頃に形成された地層である。

上天草市大矢野町の維和島や天草上島北端の下大戸鼻東岸付近には板状をなす良質な姫浦層群下部亜層の砂岩露頭がある。これらの地域に産する板状砂岩が古墳時代に天草地域や八代海沿岸地域、それに宇土半島一帯の古墳に用いられた。そのことを地質学的に証明する方法は現段階では確立されていないが、この地域の古墳に集中的に分布するという現実と、それらの地域に最も近い維和島や大戸鼻一帯の海岸付近にみられ

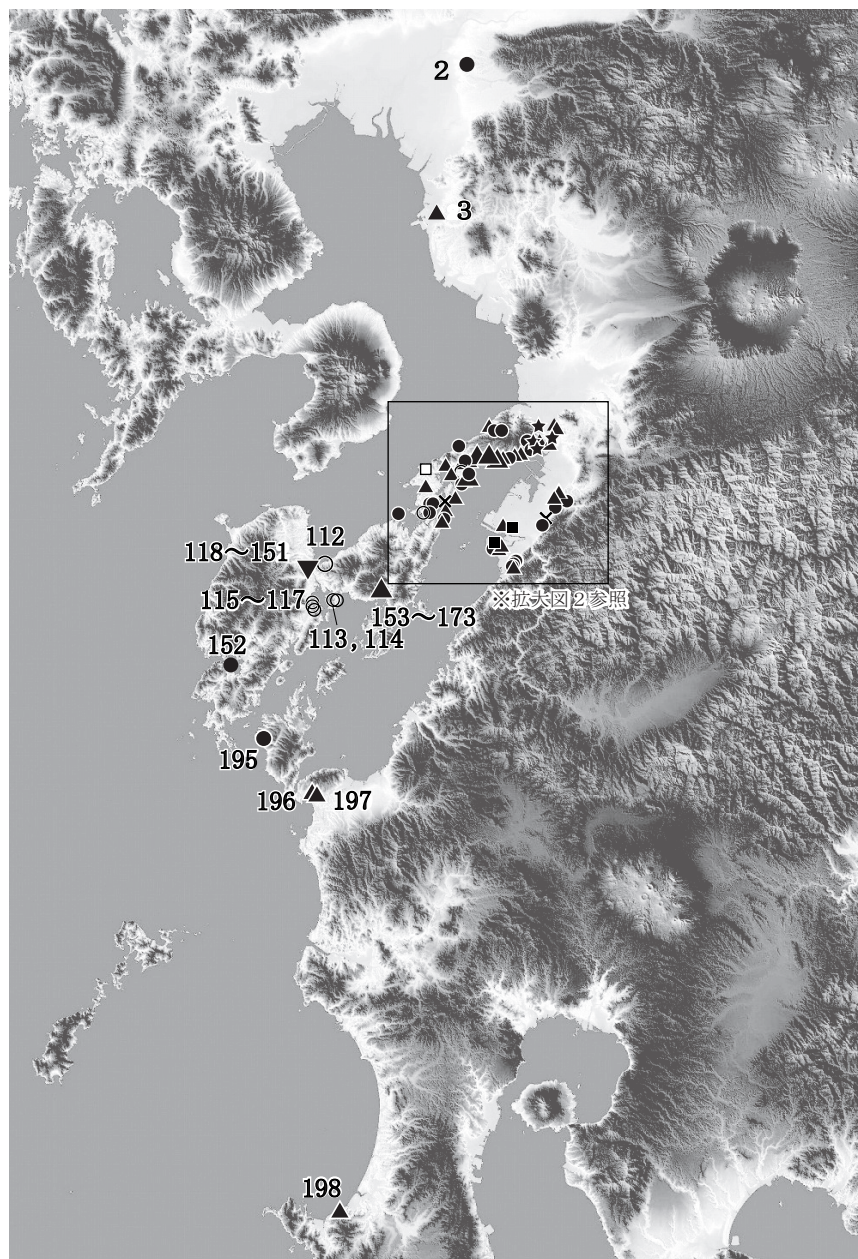
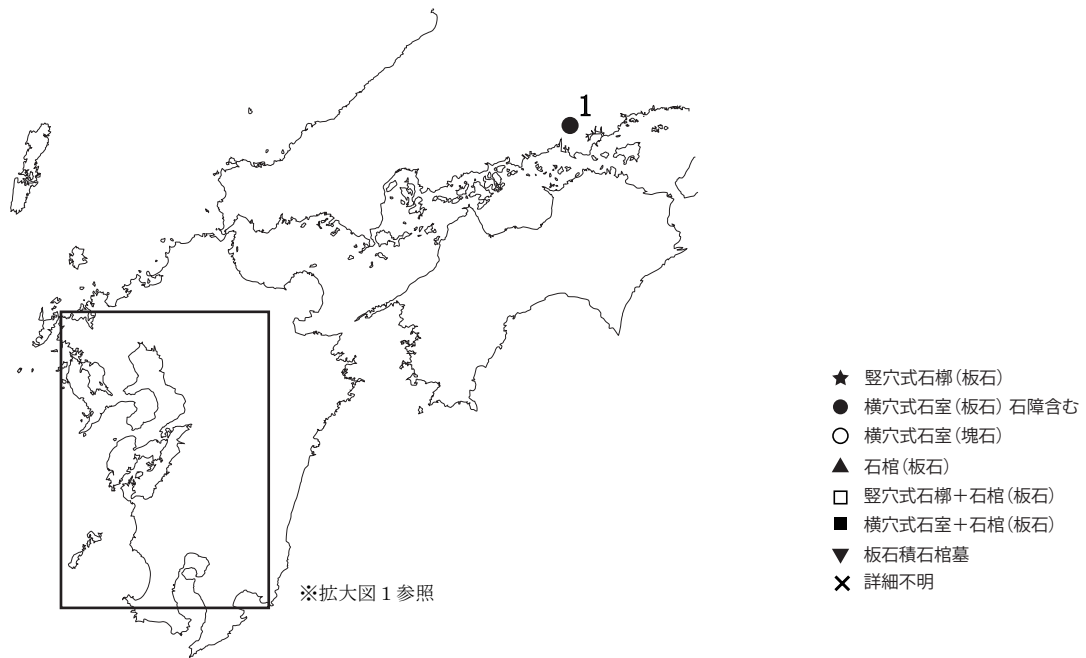
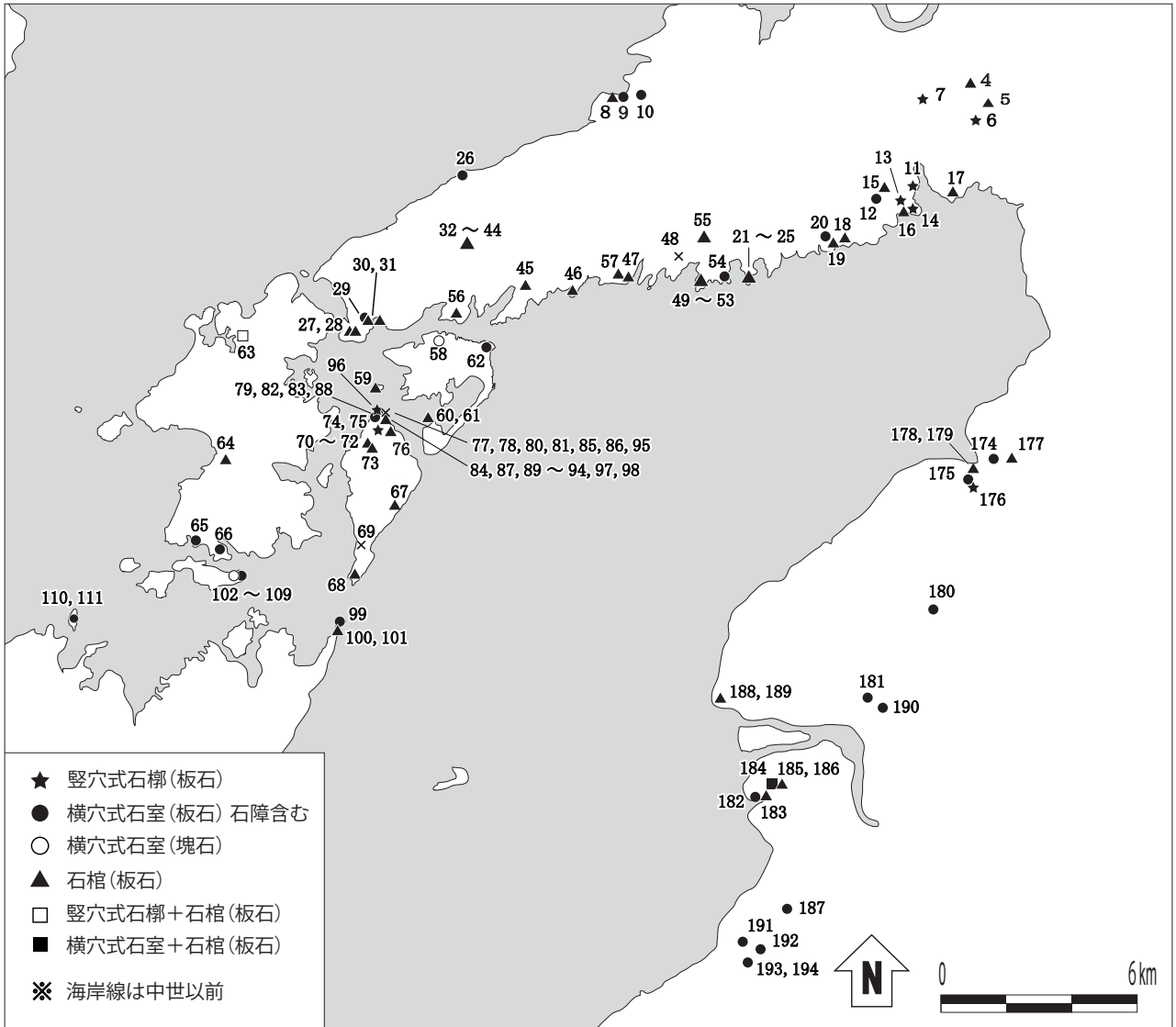


図1 天草砂岩使用古墳分布図(1) (番号は表1~5に対応)



拡大図2

図2 天草砂岩使用古墳分布図(2) (番号は表1～5に対応)

る板状砂岩の露出状況を勘案した状況証拠から見た推測であり、それらの古墳石材は両地域で採りだされたものとみられる [高木恭 1999]。

また、これらとは別に天草上島南端の天草市下浦一帯にある砥石層・坂瀬川層の砂岩は、板状石だけではなく塊石が多くあり、その周辺地域に分布する古墳には塊石状砂岩を用いたものがあり、その数は8基ほどある [古城 2009]。

次に、天草砂岩の歴史的な利用のされ方について述べ、第3節の石切場特定のための基礎的なデータとしたい。

## 2 八代海（不知火海）沿岸地域における天草砂岩の利用

### (1) 古墳時代

古墳時代に天草砂岩を用いた事例は一覧表（表1～5）に示した通りである。その大半は維和島およびその付近に産するとみられる板状石の砂岩であるが、これとは別に数は少ないながらも天草市下浦付近に産す

表1 天草砂岩使用古墳一覧表(1)

No.	古墳名	所在地	墳形(規模)	主体部	集成 編年	砂岩使用部位			石材 形態	他の石材 との併用	備考	文献
						石室	石障	石棺				
1	千足古墳	岡山市北区新庄下	帆立貝	横室	6	○	○		板石	安山岩	仕切石に装飾(直弧文)。	27
2	藤山甲塚古墳	久留米市藤山町甲塚	帆立貝	横室	5	○	○		板石	結晶片岩		35
3	宅ヶ峯古墳	大牟田市昭和町	円	箱棺	5?			○	板石			7・8
4	古保里遺跡 2号石棺	宇土市古保里町陳道		箱棺	5			○	板石		群中の1・3号石棺には安山岩を使用。	4
5	西潤野2号墳	宇土市立岡町西潤野	円	箱棺	6			○	板石	凝灰岩	石棺の蓋石には阿蘇溶結凝灰岩を使用。	4
6	向野田古墳	宇土市松山町向野田	前方後円	竪室	3	○			板石	凝灰岩	石室内に阿蘇溶結凝灰岩製舟形石棺。	4・5
7	迫ノ上古墳	宇土市神合町迫ノ上	前方後円	竪室	2~3	○			板石			4
8	マブシ2号石棺	宇土市下網田町塩屋	不明	箱棺	5			○	板石		3号石棺には安山岩を使用。	4
9	城1号墳	宇土市上網田町城	円	横室	5		○		板石	安山岩	石室壁体等の構築には安山岩を使用。	4
10	ヤンボシ塚古墳	宇土市上網田町小宗	円	横室	6	○			板石	安山岩 凝灰岩	石室扉石と仕切石に砂岩を使用。	4・6
11	鴨籠古墳	宇城市不知火町長崎	円	竪室	7	○			板石	凝灰岩	石室内に阿蘇溶結凝灰岩製の舟形石棺。	12・28
12	道免古墳	宇城市不知火町長崎	前方後円?	横室?	7~8	○?			板石			28
13	国越古墳	宇城市不知火町	前方後円	横室	9	○			板石	安山岩 凝灰岩	石室内に阿蘇溶結凝灰岩製の石屋形状石棺、装飾。	12
14	弁天山古墳	宇城市不知火町長崎	前方後円	竪室	2~3	○			板石			28
15	八久保古墳	宇城市不知火町	円	箱棺	6			○	板石			28
16	東塩屋浦古墳	宇城市不知火町東塩屋浦	円	箱棺	6			○	板石			28
17	十五社石棺	宇城市不知火町高良		箱棺				○	板石			28
18	於呂口東箱式石棺	宇城市不知火町長崎		箱棺				○	板石			28
19	西於呂口箱式石棺	宇城市不知火町永尾		箱棺				○	板石			28
20	河添の鬼ノ岩屋 (立山鬼の岩屋古墳)	宇城市不知火町永尾	円	横室	終	○			板石		全て砂岩を使用した横穴式石室。	29
21	大見観音崎古墳 2号石棺	宇城市不知火町永尾		箱棺				○	板石			25
22	大見観音崎古墳 4号石棺	宇城市不知火町大見		箱棺				○	板石			25
23	大見観音崎古墳 6号石棺	宇城市不知火町大見		箱棺				○	板石			25
24	大見観音崎古墳 7号石棺	宇城市不知火町大見		箱棺				○	板石			25
25	大見観音崎古墳 10号石棺	宇城市不知火町大見		箱棺				○	板石			25
26	小田良古墳	宇城市三角町小田良	円	横室	6		○		板石	安山岩	石障には砂岩を、石室壁体には安山岩を使用。装飾古墳。	12・51
27	磯山A号石棺 (清水乙墳) (磯山2号墳)	宇城市三角町三角浦		箱棺	5?			○	板石			51
28	磯山B号石棺(清水甲墳) (磯山1号墳)	宇城市三角町三角浦		箱棺	4~5			○	板石			8・47
29	陣内1号墳 (重盛山古墳)	宇城市三角町波多	円	横室	5	○			板石	安山岩	石室壁体は砂岩。 石障・仕切石は全て安山岩。	47・49
30	陣内3号墳 (重盛山3号墳)	宇城市三角町波多		箱棺				○	板石			47
31	陣内4号墳 (重盛山4号墳)	宇城市三角町波多		箱棺?	5?			○	板石			47
32	平松古墳群 1号墳	宇城市三角町波多	円	箱棺?	2			○	板石			22・49
33	平松古墳群 2号墳	宇城市三角町波多	円	箱棺?	2			○	板石			22・49
34	平松1号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	3			○	板石			22・52
35	平松2号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	3~4			○	板石			22・52
36	平松3号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	2~3			○	板石			22・52
37	平松4号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	2			○	板石			22・52
38	平松5号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	2			○	板石			22・52
39	平松6号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	4			○	板石			22・52
40	平松7号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	3			○	板石			22・52
41	平松8号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	3			○	板石			22・52
42	平松9号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	2			○	板石			22・52
43	平松12号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	3			○	板石			22・52
44	平松14号石棺	宇城市三角町波多		箱棺	3			○	板石			22・52
45	金桁古墳群 1号墳	宇城市三角町中村		箱棺	5?			○	板石			49・54
46	児島崎古墳 (首塚)	宇城市三角町郡浦	円	横室	5	○			板石		砂岩のみを使用した横穴式石室。	54
47	底江崎古墳	宇城市三角町底江		箱棺				○	板石			54
48	手場古墳群	宇城市三角町手場					○?		板石		石室材とみられる板状砂岩が散在。	54
49	要古墳群 1号石棺	宇城市三角町大口		箱棺				○	板石			54
50	要古墳群 3号石棺	宇城市三角町大口		箱棺				○	板石			54
51	要古墳群 4号石棺	宇城市三角町大口		箱棺				○	板石	凝灰岩	板状の凝灰岩を使用して石棺をつくるが、 棺材の支えとして板状砂岩を立てる。	54
52	要古墳群 5号石棺	宇城市三角町大口		箱棺				○	板石			54
53	要古墳群 6号石棺	宇城市三角町大口		箱棺				○	板石	頁岩		54

表2 天草砂岩使用古墳一覧表(2)

No.	古墳名	所在地	墳形(規模)	主体部	集成 編年	砂岩使用部位			石材 形態	他の石材 との併用	備考	文献
						石室	石障	石棺				
54	大串古墳	宇城市三角町大口		横室		○			板石		横穴式石室の壁体・仕切石全てに砂岩を使用。	54
55	大口地神社石棺	宇城市三角町大口		箱棺?				○?	板石		石材の一部に朱を塗布。	51
56	黒崎石棺群	宇城市三角町黒崎		箱棺?				○?	板石		板石1点が確認され、石棺材とみられる。	25
57	御船古墳 1号石棺	宇城市三角町里浦		箱棺				○	板石			25
58	田井浦古墳	宇城市三角町		横室		○			塊石			54
59	寺島古墳群 5号箱式石棺	宇城市三角町戸馳		箱棺	5			○	板石			51・54
60	丸子島古墳 1号石室 (1号墳)	宇城市三角町戸馳		箱棺	4			○	板石	安山岩	石棺材のうち、長側石は砂岩、小口石は安山岩を使用。	53
61	丸子島古墳 2号石室	宇城市三角町戸馳		(石棺系)	5			○	板石	安山岩	1号同様、砂岩と安山岩を併用。 安山岩をより多く使用。 板状砂岩を小口積みして石棺状の小石室を構築。	53
62	鬼塚古墳	宇城市三角町戸馳	円	横室	7		○		板石		石障石材は厚さ10~30cm。	51・54
63	成合津2号墳	上天草市大矢野町登立	円	竪室 箱棺	4	○		○	板石	安山岩 変成岩	安山岩を主体とする竪穴式石室に、一部砂岩と変成岩が含まれる。石室内の箱式石棺にも砂岩を使用。	21
64	一本松古墳	上天草市大矢野町登立		箱棺				○	板石			21
65	西小柳古墳	上天草市大矢野町中		横室		○			板石			30
66	長砂連古墳	上天草市大矢野町中	円	横室	5~6			○	板石	凝灰岩	石障には阿蘇溶結凝灰岩。 仕切石に板状砂岩を使用。直弧文の装飾。	12・16
67	越路北古墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			25
68	広浦古墳	上天草市大矢野町維和	円	箱棺	5			○	板石		裝飾古墳。	25・48
69	大鷲浦古墳	上天草市大矢野町維和		竪室? 箱棺?		?		?	板石		3枚の板石が立てられている。 石室もしくは石棺材の疑い。	21・25
70	浮無田北古墳群 1号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			21・25
71	浮無田北古墳群 2号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○?	板石		石材は元位置を保っていないとみられる。	21・25
72	浮無田北古墳群 3号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			21・25
73	浮無田南古墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			21・25
74	桐ノ木尾ばね古墳 北石室	上天草市大矢野町維和		竪室	4	○			板石		板状砂岩を小口積みして竪穴式石室。赤色顔料を塗布。	21・25
75	桐ノ木尾ばね古墳 南石室	上天草市大矢野町維和		石棺系	4	○			板石		赤色顔料を塗布。	21・25
76	桐ノ木墓地古墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			21・25
77	千崎古墳群 2号墳	上天草市大矢野町維和							板石			18
78	千崎古墳群 3号墳	上天草市大矢野町維和							板石			18
79	千崎古墳群 5号墳	上天草市大矢野町維和	円	横室	5	○			板石			16・17・ 19・20
80	千崎古墳群 6号墳	上天草市大矢野町維和							板石			16
81	千崎古墳群 7号墳	上天草市大矢野町維和							板石			17
82	千崎古墳群 8号墳	上天草市大矢野町維和		横室	5			○	板石			16
83	千崎古墳群 9号墳	上天草市大矢野町維和		横室	4			○	板石			16
84	千崎古墳群 10号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺	4			○	板石			18・19・ 20
85	千崎古墳群 11号墳	上天草市大矢野町維和							板石			16
86	千崎古墳群 12号墳	上天草市大矢野町維和							板石			18
87	千崎古墳群 13号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺	4~5			○	板石			16
88	千崎古墳群 14号墳	上天草市大矢野町維和		横室?					板石			16
89	千崎古墳群 15号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺	4~5			○	板石			16
90	千崎古墳群 16号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			16
91	千崎古墳群 17号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			16
92	千崎古墳群 20号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			16
93	千崎古墳群 21号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺				○	板石			16
94	千崎古墳群 22号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺	5			○	板石			16
95	千崎古墳群 23号墳	上天草市大矢野町維和							板石			18

表3 天草砂岩使用古墳一覧表(3)

No.	古墳名	所在地	墳形(規模)	主体部	集成 編年	砂岩使用部位			石材 形態	他の石材 との併用	備考	文献
						石室	石障	石棺				
96	千崎古墳群 24号墳	上天草市大矢野町維和		竪室?					板石			16
97	千崎古墳群 25号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺	4			○	板石	安山岩	箱式石棺に砂岩と安山岩を併用。	20
98	千崎古墳群 26号墳	上天草市大矢野町維和		箱棺	5			○	板石			17
99	大戸鼻北古墳	上天草市松島町阿村	円	横室		○	○		板石		装飾。	12
100	大戸鼻南古墳	上天草市松島町阿村	円	箱棺				○	板石		装飾。	12
101	大戸鼻石棺	上天草市松島町阿村		箱棺				○	板石			12
102	カミノハナ1号墳	上天草市松島町合津	円	横室	8	○			塊石 板石			14・15
103	カミノハナ2号墳	上天草市松島町合津	円	横室	8	○			板石		※報告書では「ブロック状の石」と表記されるが、石室実測図を見る限りは板石と捉えて良いか。	14・15
104	カミノハナ3号墳	上天草市松島町合津	円	横室	8	○	○		塊石 板石			14・15
105	カミノハナ4号墳	上天草市松島町合津	円	横室	9	○			塊石 板石			14・15
106	カミノハナ5号墳	上天草市松島町合津	円	横室	9	○	○		板石		報告書では「ブロック状の石」と表記されるが、石室実測図を見る限りでは板状石が目立つ。	14・15
107	カミノハナ6号墳	上天草市松島町合津	円	横室	9	○			板石 塊石			14・15
108	カミノハナ7号墳	上天草市松島町合津	円	横室		○			塊石?			14・15
109	カミノハナ8号墳	上天草市松島町合津	円	横室					塊石		墳丘上に小児頭大の塊石が散乱。 石室材か?	14・15
110	竹島3号墳	上天草市有明町竹島	円	横室	5	○			板石		羨道部前面より、モリ先を象ったとみられる石製表飾が見つかった。これも砂岩製。	38
111	竹島4号墳	上天草市有明町竹島	円	横室	8	○	○		板石			38
112	大松道古墳	天草市本渡志垣町 大松道	円	横室	9	○			塊石		ほぼ砂岩を用いた横穴式石室。 腰石に用いた巨石の他、上部にもブロック状の塊石を使用。	43・46
113	金左衛門鬼塚古墳	天草市本渡下浦町 金左衛門山	円	横室	10	○			塊石		〃	43・46
114	須森古墳	天草市本渡下浦町字出崎	円	横室	10	○			塊石			43・46
115	鬼の鼻古墳	天草市本渡楠浦町 南小郷		横室	10	○			塊石		〃	43・46
116	観音向山1号墳	天草市本渡楠浦町 南古郷	円?	横室	10	○			塊石		〃	43・46
117	楠浦新田古墳	天草市本渡楠浦町字鬼塚又	円	横室	9	○			塊石			43・46
118	妻の鼻墳墓群 1号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
119	妻の鼻墳墓群 2号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
120	妻の鼻墳墓群 3号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
121	妻の鼻墳墓群 4号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
122	妻の鼻墳墓群 5号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
123	妻の鼻墳墓群 6号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
124	妻の鼻墳墓群 7号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
125	妻の鼻墳墓群 8号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
126	妻の鼻墳墓群 9号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
127	妻の鼻墳墓群 10号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	6	○			板石			45
128	妻の鼻墳墓群 11号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
129	妻の鼻墳墓群 12号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
130	妻の鼻墳墓群 13号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	6	○			板石			45
131	妻の鼻墳墓群 14号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石		石室内面にベンガラを塗布。	45
132	妻の鼻墳墓群 15号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
133	妻の鼻墳墓群 16号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
134	妻の鼻墳墓群 17号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	6	○			板石			45
135	妻の鼻墳墓群 18号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
136	妻の鼻墳墓群 19号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45

表4 天草砂岩使用古墳一覧表(4)

No.	古墳名	所在地	墳形(規模)	主体部	集成 編年	砂岩使用部位			石材 形態	他の石材 との併用	備考	文献
						石室	石障	石棺				
137	妻の鼻墳墓群 20号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
138	妻の鼻墳墓群 21号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	3?	○			板石			45
139	妻の鼻墳墓群 22号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
140	妻の鼻墳墓群 23号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5	○			板石			45
141	妻の鼻墳墓群 24号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	6	○			板石			45
142	妻の鼻墳墓群 25号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
143	妻の鼻墳墓群 26号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	6	○			板石			45
144	妻の鼻墳墓群 27号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
145	妻の鼻墳墓群 28号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	4~5	○			板石		堅穴式石室状。	45
146	妻の鼻墳墓群 29号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
147	妻の鼻墳墓群 31号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
148	妻の鼻墳墓群 32号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
149	妻の鼻墳墓群 33号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺		○			板石			45
150	妻の鼻墳墓群 35号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石 棺?		○			板石		破壊が著しく、調査当初は土壇墓と考えられていた。	45
151	妻の鼻墳墓群 36号石室墓	天草市本渡亀場町亀川		板積石棺	5~6	○			板石			45
152	鬼塚古墳	天草市河浦町今福		横室	10	○			板石			1
153	宮崎石棺墓群 1号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
154	宮崎石棺墓群 2号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
155	宮崎石棺墓群 3号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
156	宮崎石棺墓群 4号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	4			○	板石			56
157	宮崎石棺墓群 5号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
158	宮崎石棺墓群 6号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石 頁岩 花崗岩		砂岩の他、頁岩、花崗岩を使用。	56
159	宮崎石棺墓群 7号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	4			○	板石			56
160	宮崎石棺墓群 8号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
161	宮崎石棺墓群 9号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
162	宮崎石棺墓群 10号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
163	宮崎石棺墓群 11号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	3			○	板石			56
164	宮崎石棺墓群 12号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
165	宮崎石棺墓群 13号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
166	宮崎石棺墓群 14号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
167	宮崎石棺墓群 16号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	5			○	板石			56
168	宮崎石棺墓群 17号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
169	宮崎石棺墓群 18号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	4			○	板石			56
170	宮崎石棺墓群 19号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	4			○	板石			56
171	宮崎石棺墓群 20号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	3			○	板石			56
172	宮崎石棺墓群 21号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺				○	板石			56
173	宮崎石棺墓群 22号石棺	天草市倉岳町棚底		箱棺	5			○	板石			56
174	中の城古墳	八代郡氷川町野津	前方後円	横室	9	○			板石	凝灰岩	砂岩と凝灰岩を併用した横穴式石室。	58
175	大王山2号墳	八代郡氷川町早尾		横室?	10	○			板石		大型の板状砂岩を立てて石室を構築。	12
176	大王山3号墳	八代郡氷川町早尾		堅室	4	○			板石	凝灰岩	板石小口積の石室内に阿蘇溶結凝灰岩製の舟形石棺を安置。	12
177	飛山石棺	八代郡氷川町大野		箱棺				○	板石			

表5 天草砂岩使用古墳一覧表(5)

No.	古墳名	所在地	墳形(規模)	主体部	集成 編年	砂岩使用部位			石材 形態	他の石材 との併用	備考	文献
						石室	石障	石棺				
178	室の山古墳 1号石棺	八代郡氷川町今		箱棺				○	板石			
179	室の山古墳 2号石棺	八代郡氷川町今		箱棺	5			○	板石			
180	門前古墳	八代市岡町谷川	前方後円	横室	5		○?		板石		ほぞを掘った板状砂岩に円文装飾。	12
181	西片町 転用板碑	八代市西片町		横室?	6?		○?		板石		石障?を板碑に転用。	11・57
182	大鼠蔵尾張宮古墳	八代市鼠蔵町大鼠蔵	円	横室	5	○	○		板石		装飾あり。 石室壁体だけでなく、石障や仕切石にも砂岩を使用。	12
183	大鼠蔵東1号石棺	八代市鼠蔵町大鼠蔵		箱棺?				○?	板石		装飾。	2
184	小鼠蔵山第1号墳 (小鼠蔵1号古墳)	八代市鼠蔵町小鼠蔵	円	横室? 竪室?	4~5	○	○	○	板石		石室内全面にベンガラ。	2
185	小鼠蔵山第2号墳 (小鼠蔵2号墳)	八代市鼠蔵町小鼠蔵		箱棺				○	板石			2
186	小鼠蔵山第3号墳 (小鼠蔵3号古墳)	八代市鼠蔵町		箱棺				○	板石		装飾。	2
187	五反田古墳	八代市敷川内町五反田		横室	6~7	○	○?		板石		装飾。	12
188	高島古墳群 2号石棺	八代市高島町高島山		箱棺	3			○	板石			25
189	高島古墳群 3号石棺	八代市高島町高島山		箱棺	4			○	板石			25
190	高取上ノ山古墳	八代市上片町高取		横室	7~8	○		○	板石			57
191	塩竈古墳	八代市日奈久大坪町 塩竈	円?	横室?		○			板石			57
192	長迫古墳	八代市日奈久大坪町 永迫		横室?			△?	△?	板石		砂岩製の装飾石材。 箱式石棺の部材もしくは石障?	57
193	田川内1号墳	八代市日奈久新田町	円	横室	7	○			板石		装飾。	12・57
194	田川内2号墳	八代市日奈久新田町		箱棺				○	板石		装飾。	12・57
195	小浜崎2号墳	鹿児島県出水郡長島町 蔵之元	円	石棺状石 室	5	○			板石	安山岩?	2室に区切られた石棺系石室の内、西側の B室床面に砂岩の板石を敷いて床とする。 石室には小型の羨道が伴っていた可能性が ある。	3
196	新田ヶ丘4号墳	鹿児島県阿久根市脇本	封土なし	箱棺				○	板石			3
197	糸割淵1号墳 (新田ヶ丘5号墳)	鹿児島県阿久根市脇本		箱棺				○	板石		丘陵地形を利用した小規模な墳丘も想定で きるが、現状では未確認。	3
198	奥山古墳 (六堂会古墳)	鹿児島県南さつま市 加世田	円	箱棺	4			○	板石	安山岩 凝灰岩	長側石に砂岩を使い、小口には安山岩と凝 灰岩を使用。 石棺はカギ継ぎタイプであり、砂岩にのみ こうしり削り込み加工がみられる。	41

る塊石を用いた砂岩の例があり、これは主として横穴式石室に用いられた。

天草砂岩で最も早く用いられたのは、箱式石棺の板状石である。宇城市三角町平松石棺群〔坂本 1957〕のものをはじめとして、その構造から古墳時代初期のものと考えられる事例がある。その中でも石棺の長側辺の板石が1辺に5~7石を用いているものであり、3号石棺や4号、5号がこれにあたる。長辺の石材の数は時代の移り変わりと共に減り4石、3石となって遂には1枚石で長辺を作るようになる。石材の減少にあわせるかのように石棺そのものの大型化が進むようになる。

長辺に2枚石を用いる折にはその接合部を相欠き継ぎにするいわゆる千崎型箱式石棺が出現する。

石材を多く用いるという傾向は蓋石にもいえるのであって、蓋の数も6~8枚を用いる段階から次第に数を減じ最終的には2枚石のものに落ち着く。しかも、この砂岩を用いる石棺には石材の合わせ部に溝を彫ったり、面の合わせ部に面取りをするものが多く、石材組合せを丁寧に施す。

西健一郎によれば平松3・5号石棺などは、布留式古段階前期前半に位置づけられる〔西 1993〕といい、集成編年(時期区分の基準は前方後円墳集成編年による)〔広瀬 1991〕1~2期の初め頃には既に天草砂岩は活用されたとみられている。また一辺に2枚石を用いる千崎型箱式石棺〔島津屋 2009〕の時期は、奥山古墳の事例を勘案すると前期後半にはすでにこの種の石棺に天草の石が用いられていた〔橋本・藤井ほか 2009〕。

石棺以外では竪穴式石槨の壁体や天井石に用いる場合がある。古墳時代の早い段階から用いられており、最古のものとしては宇土市迫の上古墳や宇城市弁天山古墳などがあげられ、これに次いで宇土市向野田古墳、八代郡氷川町大王山3号墳などの埋葬施設に使われ、前方後円墳集成編年2期から4期にかけての所産に位置づけできよう。



これらとは異なるものとして石障系横穴式石室に用いられた例も多い。この種の石室の最古段階とみられる小鼠蔵1号墳をはじめとして八代市内や上天草市、宇城市、宇土市など石障系横穴式石室は熊本県内に26例、熊本県外に7例がある。八代海沿岸では石室の壁体、天井石、石障、扉石、仕切石などに天草砂岩が用いられることが多い。その中には円文、同心円文、それに直弧文などが浮彫や線刻、彫り凹めなどの技法で表現されるのである。

この種の石室が最も多く構築された時期は5～6期であるが、小鼠蔵1号墳などは4期にまで遡る可能性がある。小鼠蔵1号墳は八代市にある古墳であり石室に用いられた石は水俣市付近に産する安山岩と天草の砂岩であり、それを混用して用いる〔高木恭1999〕。

5期の石室の殆どは天草の砂岩で造られており、宇土半島南岸など八代海沿岸に分布する。それに続いて5～6期になると天草砂岩と宇土半島に産する馬門石を併用した石室が出現するようになり、7期の石障系横穴式石室は馬門石だけを用いている。それらは宇土半島北岸から熊本平野で見られ、熊本平野から菊池川流域やその支流では安山岩を用いた石障系石室が広がっており、その時期は8期にまで残る。

つまり、この種の石室は天草砂岩から馬門石に変わっていくという傾向にあり、その次には宇土半島の安山岩から熊本平野金峰山系の安山岩、そして熊本市西北部から玉名市天水町付近に産する三の岳の安山岩を用いるなど、時期や地域によって石材も次第に変わっている〔高木恭1994・1999〕。

## (2) 中近世

古墳時代以降の古代において天草砂岩がどのような形で使われたのかは現段階ではよく分かっていない。もちろん、それに続く中世においても分かっていないが、板碑などにこの石が使われている事例がある。具体的には八代市域において古墳の横穴式石室の石障石材や箱式石棺に用いられた石材が転用して使われているものであり、八代市西片町の長祿2(1458)年銘の地藏三尊図板碑をはじめとするもので、何れも板状石が用いられている。このように中世段階で用いられたのは古墳石材の転用であり、石切場から直接石を採り出して用いたものではないようである。

しかし近世中頃になると大名墓や神社の鳥居に用いられるようになり、その後は仁王像などにも砂岩が用いられるようになる。しかもそれらに用いられる砂岩は厚めの塊石を用いたものであり、板状石ではない。

具体的には宇土細川家では元文2(1737)年に亡くなった4代藩主細川興生以降の墓石に砂岩が用いられるようになる。同様に八代の松井家5代当主松井寿之は延享2(1745)年に亡くなっておりその墓石が砂岩である。

近世墓に砂岩が使われるようになってからしばらくした後に、肥前石工によって鳥居製作の技術が天草市下浦付近に伝えられ、八代・水俣付近において天草下浦付近の砂岩を用いた鳥居が散見されるようになる。具体的には八代市妙見神社、久多良木神社、水俣市諏訪神社、陣内阿蘇神社の鳥居などがそれで、その後幕末から明治時代にかけて八代海沿岸一帯にも鳥居が広がりを見せるようになる〔佐藤・時松・石原ほか2008〕。

それにやや遅れて19世紀初め頃から明治時代にかけて、同じ砂岩を用いた仁王像が八代海沿岸地域に分布する。鳥居や仁王像を作るにはかなり大きな石が必要であり、巨大な塊石を採掘する技術と良好な露頭の存在によってこのような石造物の製作が可能となった。

この他にも近世から近代はじめにかけて天草砂岩は各地で使われている。長崎市内の港湾や外国人居留区の石畳〔布袋2005〕をはじめとして西南の役関連の官軍墓地〔前川2012〕などで大量に用いられており、三角西港でも使われている。



図3 千束石切場跡



図4 下大戸鼻石切場跡

### 3 天草砂岩石切場の探索

これまで述べたように、天草砂岩が活用されてきた期間は長いですが、実際にそれらの石材が取り出された石切場の本格的な調査などはこれまでも行われたことはなく、その実態はほとんどわかっていない。

今回、天草砂岩の中でも古墳時代に盛んに用いられた板状石の石切場を探索するために踏査を行い、上天草市大矢野島周辺の海岸部において板状砂岩を採掘したと思われる露頭を実見することができた。

それは、近世とみられる矢(クサビ)穴の見られる露頭であり、相当数の矢穴の存在を確認することができた。

場所は、上天草市維和島南端と、上天草市松島町阿村の大戸鼻海岸の2か所であり、共に海岸にあって船などで接岸して採石作業にあたったのであろうと推測できる(図3~5)。なお、古墳時代の石切場を特定するための根拠・基準を明確にするのは極めて難しいので、現段階で最も古い時期の所産として近世初め頃のクサビ痕がある露頭が、それ以前の石材採掘の可能性を示しているといえよう。

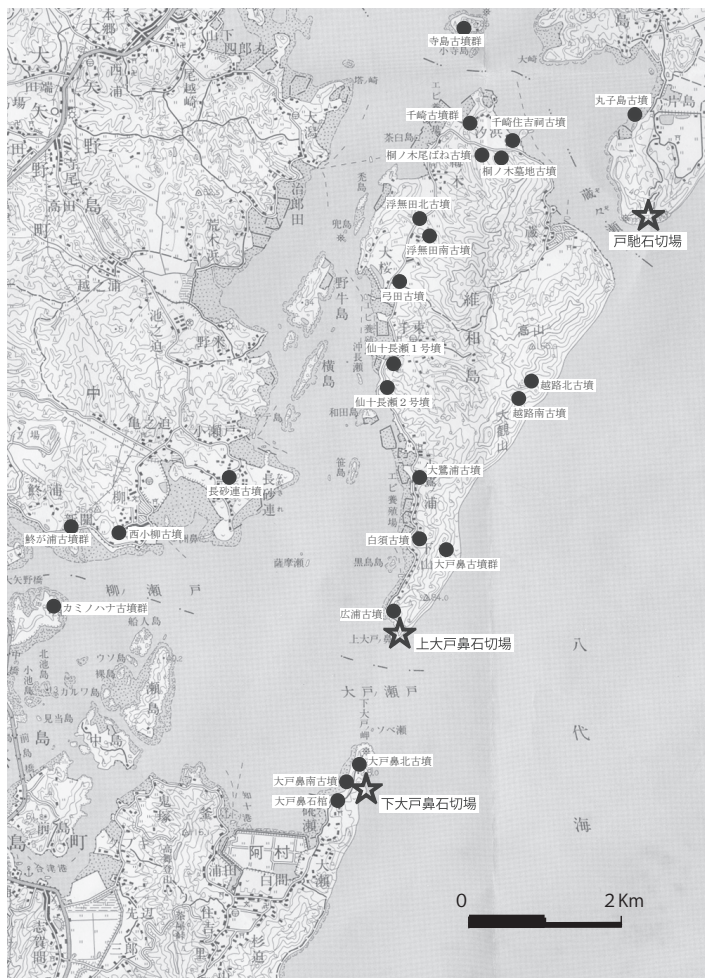


図5 維和島周辺の砂岩使用古墳と石切場跡

### 4 八代海沿岸地域外における天草砂岩の利用

一覧表(表1~5)において集成したように、天草砂岩が用いられているのは、基本的には八代海沿岸地域や宇土半島北岸地域であり、その範囲はかなり限定されている。しかしごく少数ながらこの地域以外にも知られているので、ここで概観しておくことにする。

八代海からやや南に位置する鹿児島県出水郡長島町の小浜崎2号墳は石障系横穴式石室の構造を持つ古墳であるが、この古墳の石室

屍床に天草砂岩が用いられている。石障系石室は熊本県に多いタイプの石室であり、この古墳はその南限にあたる。

同じ鹿児島県でもかなり南に離れた南さつま市加世田所在の奥山（六堂会）古墳の主体部として天草砂岩で作られた箱式石棺がある。石棺長側辺にそれぞれ2石が用いられたいわゆる千崎型箱式石棺であり、石材の共通性を含めて天草地域との関連性が重要である。

次に北に目を転じてみよう。宇土半島以北で古墳に砂岩が用いられている事例として熊本県荒尾市四ツ山古墳がある。主体部は複室構造の横穴式石室であるが、石室の上半部はなくなり腰石部分だけが残っている。石室にはコンパスを使用した円文の装飾があったといわれるが、現在ではよくわからない。石室構造からみて、終末期に属する〔熊本県教育委員会 1984〕。

この古墳の石室に用いられた砂岩は、古墳が築かれた独立丘陵の基盤となっている塊石そのもので、その砂岩は四ツ山層と呼ばれる古第三系に属する地層であり、天草砂岩ではない。

天草砂岩の福岡県の事例としてあげられるのが、大牟田市昭和町の宅ヶ峯古墳の石棺である。石棺両側壁の一方には2石が、他方には3石が用いられ、両小口には1石が使われている。石棺内には仕切があつて別区が設けられている。本体側の棺には敷石が施され、そこからは人骨3体が見つかり、その1体の左右前腕部にイモガイ製釧が装着され、別区内から短剣1振があつたという〔大牟田市役所 1965〕。

次に、同じ福岡県の久留米市藤山甲塚古墳がある。帆立貝状を呈する全長約70mの前方後円墳であり、主体部に石障系横穴式石室が構築され、この石室の石障材に天草砂岩が用いられている。横穴式石室の壁体や天井石に用いられているのは、地元産する結晶片岩であるが、石室内の石障材は殆ど抜かれていたものの、砂岩を用いた前障切り込み部が出土している〔立石 1994〕。

以上が九州の事例であり、この他にも注意しなければならないものとして佐賀県唐津湾沿岸一帯に分布する松浦砂岩を用いた古墳の事例がかなりある。竪穴式石槨をもつ久里双水古墳の石槨石材をはじめとして、竪穴式石槨に砂岩製長持形石棺を納めた谷口古墳の長持形石棺、横田下古墳の横穴式石室石材、樋ノ口古墳石室石材、島田塚古墳舟形石棺等々であり、やや離れた場所にある福岡県糸島市二丈町長須隈古墳の舟形石棺などもその事例で、この地域では舟形石棺、長持形石棺、竪穴式石槨、横穴式石室の存在が知られている。

これらの古墳とはかなり離れるが、遠賀川中流の沖出古墳の舟形石棺もこれと同じ松浦砂岩を用いたとみられる舟形石棺である。松浦砂岩は板状石を用いる事例もあるが、特徴的なのは塊石を加工して長持形石棺や舟形石棺のようなかなりの厚みをもった石棺を作っていることである。

話を天草砂岩の例にもどそう。九州内の天草産砂岩を用いた事例は先に述べたとおりであるが、九州外の岡山県にもこの石を用いた石室がある。

岡山市千足古墳がそれで、石障系横穴式石室にこの天草砂岩が用いられている〔高木恭 1986〕。玄門部両側の立柱石をはじめとして前障、左右の石障、それに奥に屍床を設けるための仕切石、奥屍床敷石などに砂岩が使われている。著名な直弧文はこの仕切石に浮彫されたものである。

石室に用いられた壁体や天井石等、他の部分に用いられた石材は安山岩であり、瀬戸内海を挟んだ対岸の香川県高松市と坂出市にまたがる五色台から持ち込まれたものという〔白石 1991, 白石・草原・西田 2012〕。

このことから見れば、この千足古墳の石室は、天草砂岩と五色台産安山岩を併用しており、2箇所から運び込まれた石材を構築部位によって使い分けがなされている。

## 5 まとめ

古墳時代における天草砂岩の利用状況について整理してきたが、この石が地域や時期によって使い分けが

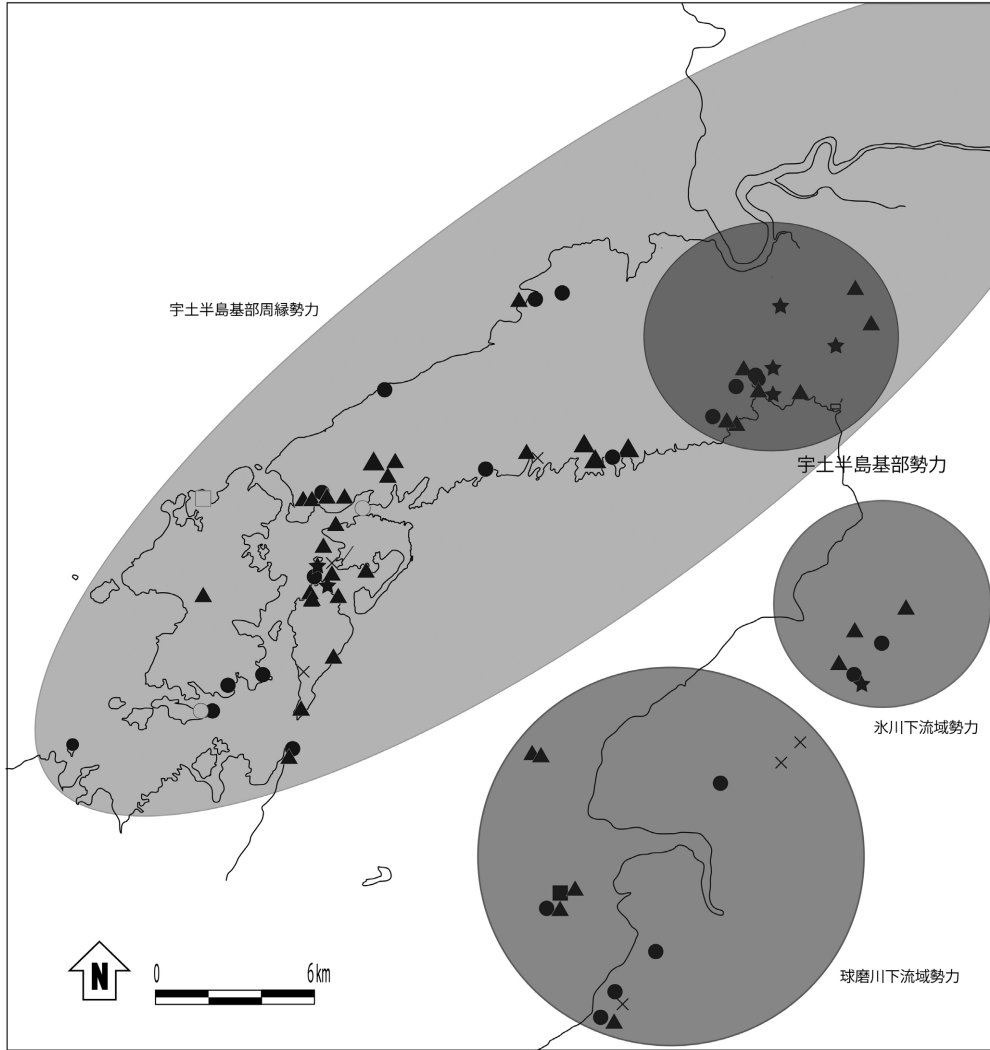


図6 八代海沿岸の地域勢力

なされているということが明らかである。

地域的広がりや時期的変遷からみれば、最も早く古墳の埋葬施設に天草砂岩を用いるようになったのは宇土半島先端に近い宇城市三角町波多の平松古墳群の箱式石棺であろうと見られるが、この平松には石棺13例が知られている。箱式石棺は数も多く、集成編年の2期から6期にかけて最も盛んに作られ、各地で使われた。

石棺以外では竪穴式石槨に板状石が大量に用いられる。埋葬主体に刳り抜き式木棺を納めた迫の上古墳や弁天山古墳、それと、同様に砂岩で構築された竪穴式石槨内に阿蘇溶結凝灰岩製の舟形石棺を納めた向野田古墳、大王山3号墳などであり、古墳の数は多くないが各古墳で使用された石材は、壁体や天井石だけではなく基底石や周囲の石材などを含めれば相当量の石が用いられた。

そして更には石障系横穴式石室も板状砂岩を積み上げて作られるが、そのほとんどは集成5期であり一部には6期にまで残るものもある。この種の石室でも多くの板状石が用いられている。

興味もたれるのは、墓室や石棺内に装飾を施す事例が多くあるということである。特に直弧文、円文を彫り込むものがあって、文様の使用には地域ごとにエリアが明確に分かれていた可能性がある。九州でも直弧文を有する古墳が多い宇土半島基部では前期以来、古墳に天草砂岩が多く用いられており、天草の砂岩を産する地域から石材の供給を受けている。この地域の中小豪族層と宇土半島基部の有力首長層の関係は、支

配、被支配の関係にあったのではないかと類推され、宇土半島から上天草地域などを宇土半島基部周縁勢力と呼ぶことにする(図6)。

いいかえれば、宇土半島基部勢力の傘下にあった天草砂岩産出地の維和島や大戸鼻付近の石切場から、八代海沿岸やその他の地域に天草砂岩は運び出された。ところが集成編年の5期から6期前半頃になると宇土半島基部勢力は、網津付近に産する馬門石の開発を成し遂げる[高木恭・渡辺1990]。

長砂連古墳やヤンボシ塚古墳に用いたものが早い段階のものであり、それ以降は馬門石を使った古墳・石棺が急速に増え、遂には大王墓石棺までつくるようになる。この馬門石採用の広がりによって天草砂岩の利用は次第に少なくなり、砂岩の採掘は行われなくなった。ただ、天草市下浦付近の砂岩は9期から10期の横穴式石室に用いられている。

本稿の一覧表(表1～5)と分布図(図1・2)の作成は主として芥川が担当し、本文及びその他の図・写真は高木が担当した。本稿執筆にあたり次の方々のご高配を得た。記して謝意を表したい。

池田朋生・伊津野拓也・草原孝典・高野信子・西田和浩・藤本貴仁・美濃口雅朗・吉永明・造山古墳蘇生会

## 註

- (1) 池田朋生は、維和島の砂岩を「イワノイシ」と呼ぶ(池田朋生2013「天草産出の砂岩を対象とした文化財石材の研究—上天草市維和島とその周辺で営まれた石工業から—」『先史学・考古学研究と地域・社会・文化論』高橋信武退職記念論集編集委員会)。しかし後述のごとく、古墳時代において利用されたのは維和島の上大戸鼻付近と天草上島の下大戸鼻付近の砂岩とみられるので、維和島・大戸鼻石の呼称を用いる。
- (2) 維和島は、もとは千束蔵々島の名で呼ばれていたが、近年は維和島の名を用いることが多いところから、本稿でもこの名称を用いる。

## 引用・参考文献(番号は表1～5の末尾文献に対応)

- 1 池田栄史 1981『河浦町郷土史』第5輯、河浦町教育委員会
- 2 池田栄史 1986「八代市鼠蔵古墳群の研究」『九州考古学』第60号
- 3 池水寛治 1982『長島の古墳—付出水地方の古墳—』長島町教育委員会
- 4 宇土市 2002『新宇土市史』資料編2 考古資料・金石文・建造物・民俗
- 5 宇土市教育委員会 1978『向野田古墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書第2集
- 6 宇土市教育委員会 1986『ヤンボシ塚古墳・檜崎古墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 7 大牟田市役所 1965『大牟田市史』上巻
- 8 大牟田市教育委員会 1986『大牟田市の文化財』
- 9 上天草市 2005『上天草市史大矢野町編資料集』1
- 10 熊本県教育会史蹟調査部 1918『熊本県史蹟調査報告第巻回』
- 11 熊本県教育委員会 1980『興善寺Ⅱ』熊本県文化財調査報告第45集
- 12 熊本県教育委員会 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』熊本県文化財調査報告第68集
- 13 熊本県地質図編纂委員会 2008『熊本県地質図(10万分の1)』熊本県地質調査業協会
- 14 熊本大学文学部考古学研究室 1981『カミノハナ古墳群』研究室活動報告11
- 15 熊本大学文学部考古学研究室 1982『カミノハナ古墳群2』研究室活動報告14
- 16 熊本大学文学部考古学研究室 2005『千崎古墳群第2・3次調査報告、長砂連古墳石障系横穴式石室実測調査報告』考古学研究室報告第40集
- 17 熊本大学文学部考古学研究室 2006『千崎古墳群第4次調査報告』考古学研究室報告第41集
- 18 熊本大学文学部考古学研究室 2007『千崎古墳群第5次調査報告』考古学研究室報告第42集
- 19 熊本大学文学部考古学研究室 2008『千崎古墳群第6次調査報告』考古学研究室報告第43集
- 20 熊本大学文学部考古学研究室 2009『千崎古墳群第7次調査報告』考古学研究室報告第44集
- 21 甲元眞之・杉井 健 2007『上天草いにしへの暮らしと古墳』上天草市史大矢野町編1 原始・古代、上天草市
- 22 坂本経堯 1957『平松箱式石棺群』三角町
- 23 坂本経堯・経昌 1971『天草の古代』

- 24 佐藤伸二・時松雅史・石原浩ほか 2008『天草石工の活動を通じた環不知火海の歴史と文化』八代工業高等専門学校
- 25 島津屋寛 2009「熊本県下の古墳時代箱式石棺」『八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の発達過程に関する基礎的研究』熊本大学文学部
- 26 白石 純 1991「吉備地方の竪穴式石室石材の原産地推定」『古文化談叢』第24集
- 27 白石 純・草原孝典・西田和浩 2012「千足古墳石室石材の産地推定」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第4号
- 28 不知火町 1972『不知火町史』
- 29 不知火町教育委員会 1998『不知火町の文化財』
- 30 杉井 健編 2009『八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の発達過程に関する基礎的研究』熊本大学文学部
- 31 高木恭二 1986「鴨別と鴨籠」『Museum Kyushu』第21号、博物館等建設推進九州会議
- 32 高木恭二 1994「石障系横穴式石室の成立と変遷」『宮嶋クリエイト』第6号、宮嶋利治学術財団
- 33 高木恭二 1999「横穴式石室の石材－石障系横穴式石室の事例を中心に－」『九州における横穴式石室の導入と展開』第2回九州前方後円墳研究会資料集
- 34 高木恭二・渡辺一徳 1990「石棺研究への一提言－阿蘇石の誤認とピンク石石棺の系譜－」『古代文化』第42-1号、古代学協会
- 35 高木正文 1999「肥後における装飾古墳の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』80、国立歴史民俗博物館
- 36 立石雅文 1994「藤山甲塚古墳」『久留米市史』第12巻資料編考古
- 37 田村 実ほか 1968「天草の地質」『熊本地学会誌』No.28
- 38 中楯 興・牧野洋一編 1990『総合研究 天草 II部』研究叢書17、熊本商科大学産業経営研究所
- 39 西健一郎 1993「箱式石棺の分類と編年」熊本古墳研究会第17回例会資料
- 40 西健一郎 2000「地下式板石積石室墓起源論」『高宮廣衛先生古稀記念論集 琉球・東アジアの人と文化』記念論集刊行会
- 41 橋本達也・藤井大祐ほか 2009「薩摩加世田奥山古墳の研究」『鹿児島大学総合研究博物館研究報告』No.4
- 42 広瀬和雄 1991「前方後円墳の編年」『前方後円墳集成』中国・四国編、山川出版社
- 43 古城史雄 2009「天草の横穴式石室」『八代海沿岸地域における古墳時代在地墓制の発達過程に関する基礎的研究』熊本大学文学部
- 44 布袋 厚 2005『長崎石物語』長崎文献社
- 45 本渡市教育委員会 1982『妻の鼻墳墓群』本渡市文化財調査報告第1集
- 46 本渡市教育委員会 1984『本渡市の古墳（1）』本渡市文化財調査報告第4集
- 47 前川清一 2012「西南戦争における官軍墓地の成立と現状について」『玉東町西南戦争遺跡総合調査報告書』
- 48 松島町史編纂委員会編 1987『松島町史』松島町
- 49 三角町教育委員会 1983『三角町の文化財』第1集
- 50 三角町教育委員会 1984『平松箱式石棺群』三角町文化財調査報告第3集
- 51 三角町教育委員会 1986『宇土半島古墳群分布調査報告Ⅱ』三角町文化財調査報告第6集
- 52 三角町教育委員会 1988『御船古墳（底江崎石棺）群』三角町文化財調査報告第7集
- 53 三角町・熊本日日新聞 1987『浜ノ洲貝塚・丸子島古墳－戸馳島古代遺跡発掘調査報告書－』
- 54 三角町役場 1987『三角町史』
- 55 水 俣 市 1991『新水俣市史』上巻
- 56 宮崎石棺墓群調査団 1990『宮崎石棺墓群』
- 57 八代市教育委員会 1992『八代市史』第1巻
- 58 竜北町教育委員会 1999『野津古墳群Ⅱ』竜北町文化財調査報告第1集